

平成24年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題

I. 糖尿病性皮膚潰瘍について()に適切な言葉を入れなさい。

糖尿病性足潰瘍には、()によって生じる水疱や鶏眼・胼胝が原因になる場合と、合併する()によって生じる場合がある。
前者は、()によって治療するが、後者の治療は()が必要になることもある。

II. うっ滞性皮膚炎・潰瘍について()に適切な言葉を入れなさい。

この原因は1次性の()が主なものであるが、この場合では()や()などの手術治療がある。2次性の主な原因には()があり、1次性・2次性ともに共通する重要な治療法として()がある。

III. 各文章を読み()内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患をカラー写真から写真(A～セ)と組織標本(1～12)を選んで[]に記入しなさい。(写真と組織は同一の患者さんのものではありません)

1. 湿疹様紅斑や()として始まり、後に湿潤・びらん性局面を呈する。進行すると局面内に小腫瘍がみられ、所属リンパ節転移が生じる。初期では()と誤診されることがある。
この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。

2. 皮膚癌手術の中では最も多い。多くは()に生じる。一種の過誤腫で、転移は極めて稀である。局所侵襲性は強く、骨まで浸潤する例もある。
この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。
また、最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[]である。

3. 原因不明だが、紫外線、慢性刺激、ウイルス、放射線などが関与し、腫瘍・潰瘍を生じる。進行すると()を伴う。()への転移も見られ、さらに肝、肺、骨などへの遠隔転移が生じる。
この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。

4. 転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚以外にも生じることがあるが日本人では()に生じる割合が多い。母斑との鑑別診断ではABCDEの頭文字で皮疹を表現することもあるが、Cは()である。
この腫瘍の診断のための検査では、()は、禁忌とすべきである。所属リンパ節の郭清を行うか否かについては色素やRIを用いる()を行う場合がある。
この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。
また、最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[]である。

3年生()番 氏名()